

様式1 平成25年度「岐阜県ふるさと教育表彰」実践報告書

市町村名	岐阜市	学校名	岐阜県立岐阜盲学校			
校長名	国枝 利博	対象学年	中学部2年	人数	2名	
活動名	GIFUブランド		時間数	70時間	継続年数	2年
題材	① 自然環境（山野・河川・動物・植物・その他） [金華山・河川環境楽園] ② 歴史（出来事・史跡・先人・その他） [鶺鴒いの里 ] ③ 文化（芸能・芸術・民話・風習・その他） [岐阜提灯・歴史博物館] ④ 地場産業（農業・水産業・伝統工芸・その他） [ソフトピアジャパン ] ⑥ その他（岐阜県の紹介） [成果物発表会 ]					
複数年継続するための工夫改善	○総合的な学習の時間に位置付けて、テーマやねらいを変えながら、取り組み、毎年継続的に総合的な学習の時間の発表を3学期の授業参観に企画し、保護者の理解を得るように工夫している。また、生徒にとって発表が励みとなり、よりわかりやすいものを作ろうとしているので、発表は新鮮である。					
<p>1 ねらい</p> <p>◎岐阜県の伝統工芸品・観光地・先端技術・学術的名所機関など岐阜県が誇れるものをリサーチし、実際に見学や体験し、レポートにまとめたり、文化祭で劇化したりして、岐阜県の良さを学んだり、広めたりする。この活動の中には、視覚に障がいがある生徒だからこそ発見できるだれにでも使いやすい施設の紹介や提案が盛り込めるようユニバーサルデザインの視点からもアプローチする。</p> <p>2 活動の概要</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・総合的な学習の時間に学んだり、発見したりしたことを「GIFUブランド」として、障がいの立場から岐阜県のすばらしさを紹介する手作り冊子を作成し、社会に広める。</li> </ul> <p>(1) 金華山登山にチャレンジ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・5つの登山コースを紹介し、実際に「七曲がりコース」を登ってみての感想のまとめや「馬の背コース」の登山者またはロープウェイ利用者へのインタビューを通して、体力や障がいに合わせての楽しみ方を紹介した。</li> </ul> <p>(2) 河川環境楽園「アクアト」の見学及び学習プログラムに参加</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・世界最大級の淡水魚水族館としての価値を理解し、特別天然記念物を調べたりできる場所である。今回は、長良川の源流から下流の石や生き物に実際に触って学ぶ学習プログラムへ参加したり、世界の川への広がりを見学したりした。河川環境楽園は、大人も子どもも楽しめるプログラムやイベントが用意されている施設なので、障がい者もお年寄りも利用できる観光スポットにもなっていることを紹介した。</li> </ul> <p>(3) 岐阜県の伝統的な鶺鴒いについて</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「鶺鴒いの里」へ見学に行き、鶺鴒いの歴史や観光について説明を聞いたり、インタビューをしたりした。まとめとして、鶺鴒の立場から長良川鶺鴒いについて劇化し、文化祭で他学部の児童生徒や保護者に発表し、広めることができた。また、実際に長良川鶺鴒いを体験できた生徒もあり、より岐阜県の伝統の理解に役立った。</li> </ul> <p>(4) 岐阜県の伝統工芸である提灯の制作や見学</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・木村商店にて、実際に提灯制作を体験させていただいて、その難しさや伝統を受け継ぐ大切さを学んだり、提灯販売店を見学し、岐阜から各地へ伝統的な作品が出荷されていることを実感した。</li> </ul> <p>(5) ソフトピアジャパンの見学</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ITの先端技術のソフトピアジャパンを見学して「最新のIT事情」やバーチャルメディア工房ぎふさんから「ITと福祉」との連携の講義や実演を学んだりした。また3Dプリンターやレーザーカッターなど世界に誇れる技術を体験した。</li> </ul> <p>以上のことについて、「GIFUブランド」としてまとめた。</p>						

### 3 地域住民との関わり、地域社会への貢献の様子

- ・見学や体験を通して、地域の人や施設の人とふれあうことによって、岐阜県立岐阜盲学校について知っていただく。
- ・視覚に障がいがあるものの立場から、ユニバーサルデザインの観点で見学したことをまとめ、岐阜県のすばらしさを紹介する。

### 4 活動による児童生徒の変容（伸長・成長）

- ・昨年度は「僕たちが見つけたユニバーサルデザイン」という視点で、各地の施設を見学し、最後のまとめとして、プレゼンテーションをしたり、ファイルにまとめたりした。この経験から、生徒は見通しをもって、「G I F Uブランド」の学習に取り組むことができた。

①ねらいや構想を具体化し計画を立てる。

②学習計画を立てる。

③役割分担をする。

④プレゼンテーションをする。

⑤成果物として、紙媒体のファイルやデジタルデータのCDを作成し、まとめる。

- ・今年度は、昨年の経験からある程度形ある作品を作り上げるスキルは学んでいる。また、訪問先と学習の概要は、以下のとおりである。

①岐阜城・歴史博物館・鶺鴒いの里・岐阜提灯の木村商店等の岐阜の伝統や・河川環境楽園アクア・トトの観光地または文化的内容に触れたりした。また、f・l a b o・ソフトピアジャパンセンター・福祉メディアセンター・バーチャルメディア工房ぎふなどで先端技術学んだり、体験したりする活動時の事前リサーチまたは事後のまとめを係分担し、それぞれの内容をデータ化した。事前リサーチが深まったときは、質問を考えることができたり、まとめでは、i P a dで自分で撮影した写真をパソコンに取り組むことができるようになった。

②見学・体験先訪問について文章化し、写真挿入をしながら感想や礼状をまとめ発表したり、送付したりできた。

③「鶺鴒いの里」見学については、台本を自分たちで作成し、劇としてステージ発表を行った。役割分担した場面はパワーポイントを使って今年度はまとめ、それぞれがプレゼンテーションできる状態となった。

④それらの資料を再構築する作業に入り、共同の成果物としての「G I F Uブランド」を完成する。

- ・生徒は、その都度、課題を設定したり、解決したりしながら成長し、その成長を自覚し、他教科でも活かそうとしている。また、他教科で学んだことを総合的な学習の時間に大いに活用している。特にパソコンの力やi P a dの活用能力はすばらしい成長を遂げている。